

北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2015.07.No215

7月号

目次

第40回 一般社団法人 北海道建築士会 全道大会（紋別大会）へ “あったか〜い おもてなしで 歓迎！”……	1
J5 団体紹介……	5
青年・女性の窓…… 〔青年委員会〕	6
支部だより…… 〔日高・十勝・札幌〕	7
information……	8
URL http://www.h-ab.com/	

第40回 一般社団法人 北海道建築士会全道大会（紋別大会）へ “あったか〜い おもてなしで 歓迎！”



- 大会テーマ 「オホーツクの四季を編む^あ」
- サブテーマ ー北の建築士、季節の中で熱くなれー

第40回 一般社団法人北海道建築士会全道大会実行委員長

一般社団法人北海道建築士会 紋別支部 支部長 **高野 昭一**

第40回北海道建築士会全道大会は、大会史上、最小正会員数39名で活動している紋別市において開催されます。「大丈夫ですか」と、ご心配の方々も多いと思いますが、5市町村で構成する紋別支部には、オホーツク管内の支部をはじめ、道東ブロック会の各支部の皆さんが強力に支えていておりますので、ご安心していらしてください。

紋別市は、人口24,000人程ですが、道内179市町村の内、16番目に広い行政区域を有しております。ですから、産業は、オホーツク海の豊かな漁場の水産と広大な土地の恵みを活かした酪農を中心とした農林、これらの素材を活かした漁業・農林畜産物の製造加工などが基幹産業となっています。

誇れるものはあまりありませんが、毛ガニ、ズワイガニ、ホタテ、サンマ、ほっけ、鮭を主とした海産物の美味さは絶品です。また、世界で初めて流水を海中見学できて、クリオネを年中見られる“氷海展望タワー”、流水を年中見て触れる“流水科学センター”は自慢です。街から飛行場、スキー場、スケート場、屋内プール、ゴルフ場、釣り場、公認パークゴルフ場などへ10分以内で行ける便利な地方都市です。

紋別市は、中心市街地の活性化など様々な課題は多くありますが、道立病院から広域紋別病院として本年4月に移転新築し運営を開始したことや、国内最大規模の木質バイオマス発電所の建設が着工したことなど、建築士は地域社会のリーダーとして活躍しています。今、建築士は、安全で、癒やしある建物や感動ある建物を創ることが求められています。感動は四季折々に見る者の心に深く染み込んで行きます。それがなにか、北の建築士が集い、初秋、あぶったイカで、雄武町の韃靼そば焼酎を交わしながら、共に熱く語り合ひましょう。

[大会プログラム]

月 日	時 間	開 催 内 容	会 場	
9月18日 (金)	13:00~13:30	青年サミット 受付	紋別市民会館 3階「小ホール」	
	13:30~17:30	青年サミット テーマ： 『オホーツクの四季から奏でるまちづくり』		
	18:30~20:30	懇親会		オホーツクタワー 3階
9月19日 (土)	10:30~12:00	来賓・大会参加者受付開始	紋別市民会館 2階 ホワイエ	
	11:30~12:30	昼食	紋別市民会館 3階「小ホール」	
	12:30~14:30	分科会 A分科会（女性委員会） B分科会（まちづくり委員会） C分科会（青年委員会）	紋別市民会館 2階「第1・第2会議室」 まちなか芸術館 1階「多目的ホール」 紋別市文化会館 1階「多目的ホール」	
		15:00~16:30	大会式典	紋別市民会館 「大ホール」
		16:50~18:00	基調講演	紋別市民会館 「大ホール」
	18:30~20:30	懇親会	ホテルオホーツクパレス 2階「パレスホール」	

分科会

A分科会 素材のチカラ オホーツクの森と暮らしをつなぐ

女性委員会

雄大な自然が四季を通して様々に変化するオホーツクは日本最大の森林認証エリアです。中でも紋別地域は地域材の様々な用途活用を進め、木材を有効活用しながら森林環境の保全を促進し循環型社会の形成を試みています。A分科会では継続して取り組んでいる「素材」において、再び「木」に焦点をあて、地域利用促進のための制度を学ぶセミナーと、地域材運用の実例（北見信金紋別支店）の見学会を行う中で、紋別・網走西部流域の地産地消の取り組みや森林認証について学び、建築士が森林資源を消費者へつなぐ役割について考えていきます。

※森林認証（SGEC）とは… 適正に管理された森林から生産される木材等を、生産・流通・加工工程でロゴ・マークを付すなどして管理し、消費者に届ける制度です。

※分科会の後半で北見信金紋別支店の見学会に移動します。（徒歩10分程度）

B分科会 波香の四季街（はこうのしきがい）

まちづくり委員会

季節が移ろうように、時間と共に街もうつろいでいきます。

一時は賑わいを見せた街の中心部も、時代の波にもまれ哀愁を漂わせながら衰退しますが、街は寄せては返す波のように、また違う形で活気を取戻そうとします。

その情景を「波香」と呼ぶことにしました。

海に面する多くの街は、かつて活気にあふれていた中心部から郊外へと発展してしまい、空洞化した中心市街地の賑わいの再生に頭を悩ませています。

しかし紋別市は、観光資源であるオホーツクの海辺で季節ごとに工夫を凝らした様々な風を起こし、中心市街地に活気を運び込んでいます。

今回は、まちあるきを通してその「波香」を肌で感じ、中心市街地の再開発への足掛かりを探っていきます。

過疎と高齢化社会への対応も思い描きつつ、郊外と中心部がそれぞれの賑わいを互いに共有できるよう、街の魅せ方を一緒に考えていきませんか？

※バスでの移動のため、500円の参加費が必要となります。

大会当日の参加受付はお受けできませんので、大会参加申込書に記載の上お申込みください。

C分科会 まちなかで考える 地域コミュニティと空き家 ～建築士としてできること～

青年委員会

近年、社会問題となっている空き家問題。市民生活の安心・安全の面から不安視されています。ここ紋別市も少子高齢化等により人口減少傾向にあることから、さらに空き家は増加していくものと思われます。C分科会ではこの空き家問題に焦点をあて、空き家の現状や課題、そしてその対策や施策を学ぶとともに、地域コミュニティの活性化に繋がる空き家の有効な利活用方法を模索し、建築士として何ができるかを考えていきます。

大会当日「号外」を発行します！

見たかったあの場面、聞いたかったその台詞、舞台の裏まで載せちゃいます！
足取り軽くオホーツクで熱くなる。情報委員会、号外を配布します。

ご期待ください。

基調講演

テーマ：『ニセコ斜めの家・始末記 —豪雪と酷暑とともに—』



講師：建築家 倉本 龍彦

北海道を代表する建築家。1968年に武蔵野美術大学造形学部建築学科を卒業し、1971年に倉本GD計画室を設立後、1984年から倉本たつひこ建築設計室を設立。また、1971年に設計し、北海道ニセコ町に建設された「ばあちゃん家」は、パリの三大美術館といわれる、ポンピドゥーセンター・フランス国立近代美術館より、鑑賞力を有する優れた作品と評価を受け、その設計図面は美術館に収蔵され特別展等で展示されている。1979年から道都大学美術学部建築学科において講師を努め、助教授、教授を歴任。旧紋別キャンパス及び現在のキャンパスで教壇に立たれ、建築家を志す学生達に大きな影響を与えた。

現在、同大学建築学科名誉教授。／1946年 札幌市生まれ。69歳

■メディア出演：2003年 大改造!! 劇的ビフォーアフターに「匠・寒冷地住宅の開拓使」として出演

青年サミット

「オホーツクの四季から奏でるまちづくり」

■テーマコメント

紋別はオホーツク海に面し、豊かな自然に恵まれており、四季のうつろいを感じられるまちです。

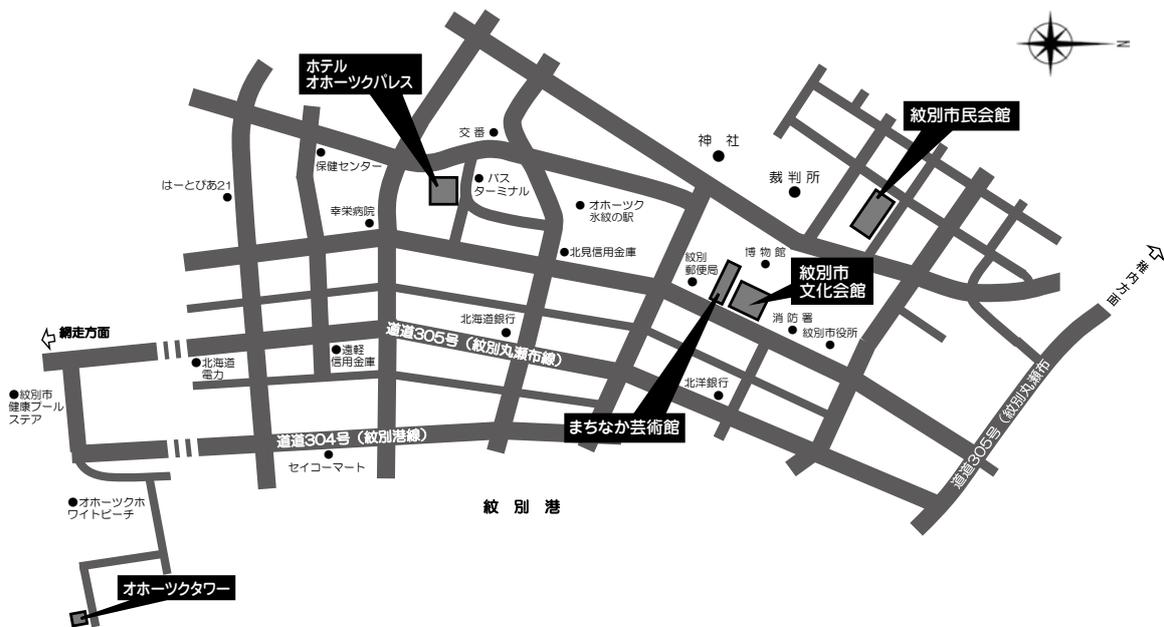
しかしながら、紋別市の人口は減少を続けており、中心市街地には空き地、空き家、空き店舗が目立ち活気が失われつつあります。それに対して、紋別市は中心市街地の活性化のため「紋別市まちづくりビジョン」を策定。そして、今年には「都市計画マスタープラン」を策定し、将来的なまちづくりの取り組みがされ始めています。

我々青年建築士は、現在の紋別を肌で感じ、オホーツクの四季を通して、これから未来へ継いでいく魅力的なまちづくりとは何かを話し合い、考えます。

■プログラム

- 13:00 ~ 13:30 ■受付
- 13:30 ~ 14:00 ■挨拶・説明
- 14:00 ~ 15:30 ■まち巡り(バス移動)
- 15:30 ~ 15:50 ■休憩
- 15:50 ~ 17:00 ■ワークショップ
- 17:00 ~ 17:30 ■発表(総評・感想含む)
- 18:30 ~ 20:30 ■懇親会

第40回全道大会（紋別大会）会場ご案内



<p>■本大会・基調講演会場 紋別市民会館</p>	<p>■分科会会場 A分科会：紋別市民会館 B分科会：まちなか芸術館 C分科会：紋別市文化会館</p>	<p>■青年サミット会場 紋別市民会館</p>
<p>■懇親会会場 ホテルオホーツクパレス</p>		<p>■青年サミット懇親会会場 オホーツクタワー</p>